

12.4. No.178
発行 市岡日映
責任 0883-88522

時代の流れで文壇

三月は別れの季節だと言われれています。卒業して、村から出て行く子供達も、勤勉が別れなければいけないのも、三月の末には少なくなありません。

また、時の流れの為に、行く物もあり、セレモニーには人があふよせる。そして、潮のりという言葉をよく聞きます。

東祖岩では、今年の三月で小学校が統合になり旧校が廃校になりました。いやまだに休校とほろいに和用小学校と入れると、東祖岩五校が廃校となりました。

東祖岩村史によれば、東祖岩での小学校の始まりは、一八七三年(明治)大枝小学校として、スタート。そして一九二三年(明治)所の瀬小学校へと発展して来りました。

落合小学校は、一八八六年(明治)落合嶺易小学校として開設。一九〇一年(明治)深淵にも落合小学校深淵分教場開設されています。

菅生小学校は、一八八五年(明治)大枝小菅生分教場として開設され、一九〇九年(明治)には、菅生小名頃分教場が開設。それが今日の名頃小学校のスタートです。

和用小学校は、一八八六年(明治)釣井嶺易小学校が、一八八九年(明治)釣井、小島が統合して和用小学校開設。

この様に、百年以上の歴史があります。いよいよ、地域の人々の熱い思いから、村や岩



私塾、夜学がそうば人を教えたのりして来ました。伊藤政吉氏が弥波波塔へマカトウで寺子屋。菅生では、前田連之助が源氏物語を講義して、伝へて、極教培し普及に努めたと伝えられています。そして、深淵分校、谷道分校の開設。和用小学校の休校。遂に、今年三月末まで、名頃、菅生、落合、所の瀬小が廃校。四月からは、東祖岩小学校として、東祖岩中学校和共に同じ下瀬でスタートします。

カ、資金を提せ、之等通り、共助として設立して、いつかという。それ以前、幕末頃には久保松、西山地区には、田清三郎氏、下瀬には阿部操氏、名頃には谷口三郎氏、菅生では田岡三郎氏、今年には井上倉次氏が寺子屋

これからの10年

年は輝くだろう



四月は出合いの季節、東祖岩小学校として、新たな時代に入り、希望に満ちたスタートとなるのだろう。自助、自助の熱い思いが、子供達の教育を担う時代から、今は、自助自助は、ほとんどの、公助として、行政にまかせれば、失くさる時、時代の流れと、懐かかったこと、この現実、過疎化のスピードは早まるばかりです。十年経てば、三月までの各小学校の様になるのは、必然の様が状況。その時、又しても、時代の流れが、さかすか、輝く時代を作るのは、今、この地に生きていく一人一人のはずです。十年後にまきこいる人に、何を伝えたいのか、どうにか、と